

薬剤師のフィジカルアセスメント教育とその実践

患者に直接触れる「フィジカルアセスメント」を薬剤師が行うことに対して、これまでは「医師でなければ、医業をなしてはならない」と定めた医師法第17条に抵触する懸念があった。しかし、2010年4月、厚生労働省がチーム医療の推進において、薬剤師の積極的な関与を求める通達を出したことを受け、日本病院薬剤師会は「日病薬による解釈と具体例」を公表。フィジカルアセスメントは「医業に当たらない」との見解を示した。長崎大学病院(長崎市・861床)は、全国に先駆けて教育プログラムを開発し、2010年2月より講習会を開始した。同院での教育の実際と臨床における実践を紹介する。



薬剤部 副薬剤部長
北原 隆志 先生



内科医 医療教育開発センター教授
濱田 久之 先生



薬剤部 薬剤師
兒玉 幸修 先生



薬剤部 薬剤師
富松 規子 先生

フィジカルアセスメント教育の目的

薬剤師がフィジカルアセスメントを行う第一義は、薬物療法の効果をより的確にチェックし、副作用を早期に発見することにある。これまでの薬剤管理指導では、必要な情報は主としてカルテや医師、看護師から得ており、十分な情報が得にくいのが実情であった。しかし、薬剤師によるフィジカルアセスメントが可能になれば患者から得られる情報が増え、よりきめ細かな患者指導が可能になる。また、医師や看護師との共有情報も増え、チーム医療の中で一層のサポートが可能になることで、医師の業務負担の軽減にもつながる。薬学教育6年制のカリキュラムには内容の差こそあれ盛り込まれているが、現場の薬剤師のほとんどはフィジカルアセスメントの教育を受けていない。そうした中で、長崎大学病院では、副薬剤部長の北原先生と医療教育開発センター教授の濱田先生が中心となって教育プロ

ラムの開発に乗り出した。

濱田先生によれば、教育の目的は4つある。患者さんのため、チーム医療推進のため、薬剤師自身のスキルアップのため、そして地域医療の充実のため、である。「地域のため」について濱田先生は「長崎県は離島も多く、構造的に医療従事者が不足する環境にあります。優れた教育システムにより医師不足を補う人材の育成を図る上で、薬剤師に対する期待はより大きくなると考えています」という。さらに育成の対象を県下のすべての薬剤師とし、既に保険薬局までも構想に含めるほど徹底したビジョンを描いている。

教育プログラムの概要と行動目標

教育プログラムの開発は2009年夏から始まった。病院長を会長に『長崎フィジカルアセスメント研究会』を立ち上げ、組織的な取り組みにするとともに多職種に参加を呼

びかけた。「医学博士と同時に教育学博士でもある濱田先生を中心に多職種にわたる教育カリキュラムを取り入れ、理論付けを重視したプログラムを作成し、講師の研修など準備に半年ほどを費やしました」と北原先生。

周到に準備された教育プログラムは次の通りである。講習会は1年間全12回で1回につき約2時間。初回はオリエンテーション、最終回は修了式の位置づけで、実質10回のうち初めの3回は総論(基本編)、7回は各論である。総論は濱田先生が担当しすべてを実技に充てる。各論は各科専門医のほか臨床工学技士による医療機器の講習も含め、こちらは半分を実技とした。毎回、予習は必須とし復習テストも用意された。

研修がスタートしたのは、2010年2月。講習は小グループに分かれ、医学部5年生がアシスタント役を務めた。「医学生たちにとっ

ては学習したばかりの内容でもあり大変熱心にサポートしてくれ、サポートする側とされる側の双方にとってメリットがありました」と北原先生。開講にあたり病院薬剤師会を通じて地域の基幹病院にも受講を呼びかけた結果、8~9の病院から17名の薬剤師の参加があり、さらに5名の薬学部5年生が加わった。「全12回、誰一人として欠席がなかったことには驚きました。現状に対する問題意識と危機感を共有し、向学心を持つ方が少なくないことを心強く感じました」(濱田先生)(資料1)

薬剤師のためのフィジカルアセスメント研修の行動目標は、以下の通りである。

1. 視診・聴診・触診の基本がわかる
 2. バイタルサインから副作用がわかる
 3. 検査値の異常から副作用の兆候を発見できる
 4. 皮膚科の副作用を発見できる
 5. 循環器系の副作用を発見できる(心電図の読み方を含む)
 6. 精神・神経系の副作用を発見できる
 7. 呼吸器系の副作用を発見できる
 8. ベッドサイドにある医療機器の見方がわかる
 9. 口腔・嚥下の基本を理解し、副作用の早期発見および最適な薬剤の服用方法の提案ができる
- 2011年7月には、実施された講習をベースにまとめた書籍『薬剤師がはじめるフィジカルアセスメント—副作用症状を見抜くためのポイント』も出版された。(資料2)

10年先を見据えた教育システムへ

長崎大学病院では、研修第一期生の薬剤師が、すでに病棟での実践に移行している。その一人、兒玉先生はフィジカルアセスメントを薬物治療における副作用の早期発見のためのツールととらえている。「カルテを見てリスクが高いと考えられる場合などは、予めどこを重点的に診るべきかを検討し、患者さんの了承を得た上で便秘に備えた腸音検査など、聴診や触診を行います。ただそうした場合以外も患者さんに対する視

点が多角的になったと感じています」

富松先生は、薬剤管理指導の一環としてフィジカルアセスメントを取り入れている。既に日常業務として溶け込んでいるためか、聴診や触診にも今では患者さんの抵抗は感じられないようだ。「今まではその都度、自己流で勉強してきましたが、研修で専門の先生方から体系的に学ぶことができました。病棟で薬物療法に問題がないかをチェックするのに非常に役立っています。また患者さんに触れ、直接情報を得られるようになったことで、患者さんとの距離が近くなった気がしますね」

両先生が実践して難しいと感じるのは聴診だという。濱田先生は「フィジカルアセスメントといっても聴診器を実際に使うのは2割程度です。研修で正常音を覚えた上で「異常」を識別できるようになれば十分です。まずは問診・視診、平たく云えば会話や顔色から多くの情報を得ることができます」とし、気軽にフィジカルアセスメントを実践し

てほしいと訴える。

2年目になる2011年の研修は、薬局薬剤師も参加している。医師不足に悩む在宅医療の現場でフィジカルアセスメントのスキルは大きな力になるはずだ。「講習会修了者には修了証書と認定バッジを交付しています。これはフィジカルアセスメントに対して一定の技術を学んだことを保証するものですが、実際には各施設あるいはチーム医療のなかで、医師や看護師の理解がなければ実践できません。より多くの修了者の育成とともにスキルの二次的な伝播、加えて薬剤師がフィジカルアセスメントを行う意義や教育システムについて、医療従事者の皆さんを啓発することが今後の課題です」と北原先生。一方、濱田先生は受講希望者数にも大きな手応えを感じている。この取り組みを「薬剤師の夜明け」と位置づけ、10年先を見据えて教育プログラムに手を加えつつ、全県に及ぶ裾野の広い活動へと展開をめざす考えだ。

資料1 長崎フィジカルアセスメント研究会研修風景



資料2 「薬剤師がはじめるフィジカルアセスメント—副作用症状を見抜くためのポイント—」



監修 河野 茂(長崎大学病院長) / 発行 南江堂 / 定価 本体3800円+税

Pharma Scope

「ファーマスコープ」

JANUARY 2012

Vol.14

ファーマスコープは病院、保険薬局で輝く薬剤師の声をお届けする情報誌です。

View

トレーシングレポートによる薬薬連携

加賀市民病院・加賀市薬剤師会の取り組み

加賀市民病院 薬剤部 久保 勝 先生 / 株田 由喜 先生
てらだ薬局 管理薬剤師 寺田 徹朗 先生

■ C-Pharmacy-1

薬・学連携における臨床共同研究

臨床から学び、臨床に還元する薬剤師を育てる

済生会広島病院 薬剤室 室長 佐々木 雄啓 先生
広島国際大学 薬学部臨床薬学教室 准教授 佐和 章弘 先生
済生会広島病院 薬剤室 主任 池本 雅章 先生
済生会広島病院 医事課 主任 地川 真一 氏

■ C-Pharmacy-2

危険予知トレーニング法を用いた薬剤業務改善

リスクセンスを磨いて医療事故を未然に防ぐ

愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院
薬剤・供給部 部長 勝見 章男 先生
医療安全部 医療安全対策係長 山下 雅代 先生 / 薬剤・供給部 薬剤師 村瀬 晴香 先生

■ C-Pharmacy-3

薬剤師のフィジカルアセスメント教育とその実践

長崎大学病院
薬剤部 副薬剤部長 北原 隆志 先生
内科医 医療教育開発センター 教授 濱田 久之 先生
薬剤部 薬剤師 兒玉 幸修 先生 / 薬剤部 薬剤師 富松 規子 先生

■ C-Pharmacy-4

副作用早期発見で薬物治療のアウトカム向上に貢献

経口抗がん剤チェックリストの作成と評価

株式会社ピノキオ薬局 学術教育マネージャー・株式会社カロン薬局 代表取締役 田中 直哉 先生
株式会社ピノキオ薬局 学術教育マネージャー 近藤 澄子 先生
株式会社ピノキオ薬局 管理薬剤師 寺戸 靖 先生

■ C-Pharmacy-5

「テレフォン服薬サポート」の取り組みとその評価

株式会社ナカジマ薬局 薬剤部 部長 北山 久乃 先生

■ ステップアップNAVI 地域で輝く薬剤師

〔第4回〕ファーマシューティカルコーチングの基礎を学ぶ

株式会社メディカルグリーン 代表取締役社長 大澤 光司 先生

■ Career Design

薬剤師をもっとメジャーに

小説を通して薬剤師の医療倫理を問いかける

薬剤師・調剤薬局コンサルタント・小説家 山村 憲司 先生

■ 失敗例から学ぶ服薬コミュニケーションNo.14

「先生に言わないでね」と言われたときの失敗

帝京平成大学薬学部 准教授 井手口 直子 先生

